



10th Annual Meeting of the Japan Dyslexia

Research Association

発達性ディスレクシア研究会
プログラム・抄録集

2010 年 7 月 3 日(土)・4 日(日)

HOKKAIDOUNIVERSITY



北海道 大学 教育学院

実行委員長 室橋春光

大会会場への交通案内

北海道大学 札幌市北区北8条西5丁目 学術交流会館 小講堂



1. 最寄り駅(札幌駅)までのアクセス

○本州方面

- (1) 電車を利用の場合: JR 北海道 **快速エアポート** 新千歳空港 — 札幌 約 **40** 分
普通席 1040 円(指定席 U シート 300 円) 15 分毎に運航
- (2) バスをご利用の場合:
 - ① **北海道中央バス**…JAL A 到着ロビー内 新千歳空港 — 札幌駅前 約 **80** 分 全席 1000 円
 - ② **北都交通バス**…ANA 到着ロビー内 新千歳空港 — 札幌駅前 約 **80** 分 全席 1000 円

○北海道内

- ① 道北方面…JR 北海道 **北斗・スーパー北斗・オホーツク・スーパーカムイ・スーパー宗谷**
- ② 道東方面…JR 北海道 **スーパーとかち・スーパーおおぞら**
- ③ 函館方面…JR 北海道 **白鳥・スーパー白鳥・すずらん・はまなす**

2. 札幌駅から北海道大学へのアクセス

- (1) 徒歩: 札幌駅北口西出口より, 約 **7** 分
- (2) タクシー: 札幌駅北口西出口より, 約 **3** 分

大会日程

発達性ディスレクシア研究会 全日程一覧表

<7月2日>

17:30 ～18:30
理事会

<7月3日>

9:30	10:00	10:10 ～10:40	10:50 ～11:50	12:00 ～13:00	13:00 ～13:30	13:40 ～15:05	15:20 ～16:45	17:00 ～17:55	19:00 ～21:00
受付	開会	教育講演	特別講演	昼食 理事会	総会	一般演題 01～03	一般演題 04～06	一般演題 07～08	懇親会

<7月4日>

8:30	9:00	9:00 ～9:30	9:45 ～10:45	11:00 ～12:00	12:00 ～13:00	13:00 ～14:25	14:40 ～15:35	15:40 ～16:00
受付	開会	教育講演	特別講演	特別講演	昼食	一般演題 09～11	一般演題 12～13	総括 閉会

全日程は学術交流会館 1 階、小講堂で行われます。各プログラムの間に随時休憩をはさんでおりますので、時間をお見計らいの上参加くださいますよう、お願いいたします。また全日程におきまして、午前プログラムは一般公開、午後プログラムは第 10 回研究会参加者限定となっております。あらかじめご了承ください。なお、7 月 3 日 13:00 より、発達性ディスレクシア研究会 総会が開催されます。本研究会会員、会員希望の方のご参加をお待ちしています。

※7 月 2 日の理事会は大会期間前に終了いたしました。ご了承下さい。

※7 月 3 日の理事会は、学術交流会館第 4 会議室で行います。役員の先生方は、お集まりお願いいたします。

プログラム

講演プログラム

<7月3日(土)>

■教育講演 10:10~10:40

今こそ、教育現場で求められていることとはなにか？

講演者:品川 裕香 (発達性ディスレクシア研究会理事, 教育ジャーナリスト)

司会:室橋春光(北海道大学)

■特別講演 10:55~11:55

発達性ディスレクシア：

欧米のディスレクシア研究と日本語に於けるディスレクシア研究の動向について

講演者:タエコ・ナカヤマ・ワイデル博士, Ph.D. Taeko Nakayama Wydell (Brunel university)

司会:宇野彰(発達性ディスレクシア研究会副理事, 筑波大学大学院 人間総合研究科)

<7月4日(日)>

■教育講演 09:00~09:30

今こそ、教育現場で求められていることとはなにか？

講演者:宇野 彰 (発達性ディスレクシア研究会副理事, 筑波大学大学院 人間総合研究科)

司会:室橋春光(北海道大学大学院 教育学研究院)

■特別講演 09:45~10:45

Dyslexia and Language Impairment: Risk and Protective Factors

講演者:マーガレット・スノーリング博士, Ph.D. Margaret Snowling (University of York)

司会:加藤醸子(発達性ディスレクシア研究会理事長, クリニックかとう)

■特別講演 11:00~12:00

Evidence-based interventions for reading and Language difficulties

講演者:チャールズ・ヒューム博士, Ph.D. Charles Hulme (University of York)

司会:若宮英司(発達性ディスレクシア研究会理事, 藍野大学)

一般演題プログラム

<7月3日(土)>

■13:40～15:05

司会:室橋春光(北海道大学 教育学研究科)

01 定型発達児における仮名音読時の単語長効果と語彙性効果

The effects of length and lexicality on reading Kana words in normal readers

- 黒川鈴子 筑波大学大学院 人間総合科学研究科
- 三盃亜美 筑波大学大学院 人間総合科学研究科
- 宇野彰 筑波大学大学院 人間総合科学研究科, LD・Dyslexia センター
- 中川和美 聖徳大学人文学部

02 仮名刺激の音読における単語長効果と語彙性効果

ー小学校5・6年生の定型発達児と発達性読み書き障害児を対象としてー

The effects of length and lexicality on reading Kana stimuli on fifth or sixth grade dyslexic children and normal reading children

- 三盃亜美 筑波大学大学院 人間総合科学研究科, 日本学術振興会 特別研究員 DC
- 宇野彰 筑波大学大学院 人間総合科学研究科, LD・Dyslexia センター
- 春原則子 目白大学保健医療学科, LD・Dyslexia センター
- 金子真人 帝京平成大学健康メディカル学科, LD・Dyslexia センター
- 栗屋徳子 東京都済生会中央病院, LD・Dyslexia センター
- Taeko N. Wydell School of Social Sciences, Brunel University
- 狐塚順子 埼玉県小児医療センター, LD・Dyslexia センター
- 後藤多可志 目白大学保健医療学科, LD・Dyslexia センター
- 蔦森英史 筑波大学大学院 人間総合科学研究科

03 単文音読検査による読み能力の縦断的検討

ー音読時間と誤読数の変化ー

A study of the early detection method of dyslexic children using oral sentence reading task

- 関あゆみ 鳥取大学地域学部, 鳥取医療センター臨床研究部
- 内山仁志 鳥取大学地域学部, 鳥取医療センター臨床研究部
- 田中大海 鳥取大学地域学部, 鳥取医療センター臨床研究部
- 小枝達也 鳥取大学地域学部, 鳥取医療センター臨床研究部

■15:20～16:45 司会：若宮英司(藍野大学)

04 漢字単語の読解力に対する音読力と聴覚的理解力からの貢献度と単語属性の影響

— 定型発達児と発達性 dyslexia 児の比較 —

Degree of contribution to reading comprehension ability of Kanji words from reading aloud ability, auditory comprehension ability, and lexical properties

— comparison between non reading deficit children and developmental dyslexic children —

- 土方彩 筑波大学大学院 人間総合科学研究科
- 宇野彰 筑波大学大学院 人間総合科学研究科, LD・Dyslexia センター
- 春原則子 目白大学保健医療学科, LD・Dyslexia センター
- 金子真人 帝京平成大学健康メディカル学科, LD・Dyslexia センター
- 栗屋徳子 東京都済生会中央病院, LD・Dyslexia センター
- 狐塚順子 埼玉県小児医療センター, LD・Dyslexia センター
- 後藤多可志 目白大学保健医療学科, LD・Dyslexia センター

05 韓国語話者小学校3年生の音読と書字にかかわる認知機能の検討

Investigation of elemental cognitive abilities with reading and writing in Korean hangul

- 朴賢リン 筑波大学大学院 人間総合科学研究科
- 宇野彰 筑波大学大学院 人間総合科学研究科, LD・Dyslexia センター

06 発達性読み書き障害児における語流暢性課題の成績について

Word fluency abilities in Japanese children with developmental dyslexia

- 後藤多可志 目白大学保健医療学科, LD・Dyslexia センター
- 宇野彰 筑波大学大学院 人間総合科学研究科, LD・Dyslexia センター
- 春原則子 目白大学保健医療学科, LD・Dyslexia センター
- 金子真人 帝京平成大学健康メディカル学科, LD・Dyslexia センター
- 栗屋徳子 東京都済生会中央病院, LD・Dyslexia センター
- 狐塚順子 埼玉県小児医療センター, LD・Dyslexia センター
- 村井敏宏 奈良県平群町立平群東小学校
- 山下光 愛媛大学 教育学部

■17:00～17:55 司会:川崎聡大(富山大学 人間発達科学部)

07 音韻意識が外国語教育に与える影響について

－潜在的なディスレクシア児への英語教育－

The effect of phonological awareness on foreign language learning

－ English education toward hidden Dyslexics in Japan －

○岩田みちる 北海道大学大学院 教育学院

室橋春光 北海道大学大学院 教育学研究院

08 読み書きに困難のある中学生 2 事例に対する英語学習支援の経過

－単語の読み書き指導におけるフォニックス法の有用性と意義について－

A Report on Teaching English to Two Japanese Middle School Students with Reading and Writing Difficulties

－ Effects and Advantages of using Phonics when Teaching How to Read and Spell Single Words －

○奥村安寿子 北海道大学大学院 教育学院

室橋春光 北海道大学大学院 教育学研究院

■13:00～14:30 司会:宇野彰(筑波大学大学院 人間総合科学研究科)

09 ひらがな単語音読における単語長、親密度、単語らしさ効果

－発達性読み書き障害児と定型発達児の比較検討－

Effects of Word length and Familiarity in Japanese Hiragana Word Reading

- 奥村智人 大阪医科大学 LD センター
中西誠 大阪医科大学 LD センター, 関西大学大学院心理学研究科
北村弥生 国立障害者リハビリテーションセンター
栗本奈緒子 大阪医科大学 LD センター
水田めくみ 大阪医科大学 LD センター
竹下盛 大阪医科大学 LD センター
若宮英司 藍野大学
玉井浩 大阪医科大学 LD センター

10 視覚情報処理能力の低下を示す児童への漢字書字訓練

－視写レベルで漢字書字困難が顕著な事例－

Kanji writing training for a child with Visual information processing deficit

- 水田めくみ 大阪医科大学 LD センター
中西誠 大阪医科大学 LD センター, 関西大学大学院心理学研究科
竹下盛 大阪医科大学 LD センター
栗本奈緒子 大阪医科大学 LD センター
奥村智人 大阪医科大学 LD センター
若宮英司 藍野大学
玉井浩 大阪医科大学 LD センター

11 文意記憶課題の文字ハイライト・音声同時提示の効果

－発達性読み書き障害児と定型発達児の比較検討－

Effect of Highlighted text and Synchronized audio presentation in sentence meaning memory task

- 竹下盛 大阪医科大学 LD センター
中西誠 大阪医科大学 LD センター, 関西大学大学院心理学研究科
北村弥生 国立障害者リハビリテーションセンター
奥村智人 大阪医科大学 LD センター
河村宏 デイジーコンソーシアム

若宮英司 藍野大学
玉井浩 大阪医科大学 LD センター

■14:40～15:35 司会:関あゆみ(鳥取大学 地域学科)

12 小学1年生における拗音, 撥音, 促音, 長音表記の習得特徴

ー音読, 書字, 要素的認知機能の検討ー

Acquisition of reading and writing special syllabic notations in Hiragana stimuli on first graders

- 浜田千晴 筑波大学 心理障害相談室
宇野彰 筑波大学大学院 人間総合科学研究科, LD・Dyslexia センター
春原則子 目白大学保健医療学科, LD・Dyslexia センター
金子真人 帝京平成大学健康メディカル学科, LD・Dyslexia センター
栗屋徳子 東京都済生会中央病院, LD・Dyslexia センター
狐塚順子 埼玉県小児医療センター, LD・Dyslexia センター
後藤多可志 目白大学保健医療学科, LD・Dyslexia センター

13 発達性ディスレクシア児の oral diadochokinesis (口部交互反復運動) 所要時間

と RAN 刺激の単独呈示による音読潜時の関係

The relation between the time required for oral-diadochokinesis by /pataka/ and response latency until naming
on the individual stimulus within RAN in dyslexic children.

- 金子真人 帝京平成大学健康メディカル学科, LD・Dyslexia センター
宇野彰 筑波大学大学院 人間総合科学研究科, LD・Dyslexia センター
春原則子 目白大学保健医療学科, LD・Dyslexia センター
栗屋徳子 東京都済生会中央病院, LD・Dyslexia センター
香月静 足立区障がい福祉センター あしすと